



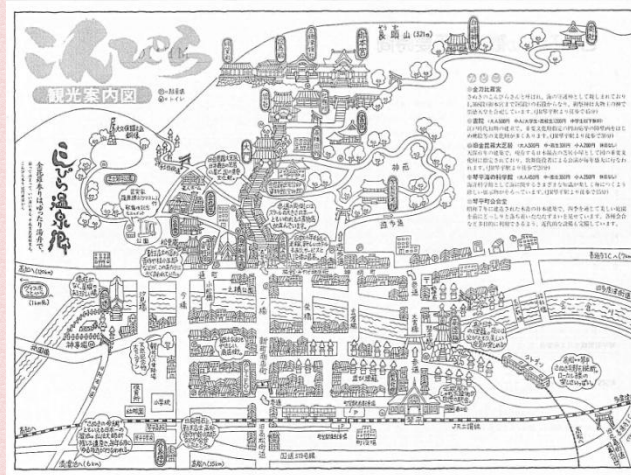
Information



金刀比羅宮(ことひらぐう)は、香川県仲多度郡琴平町の象頭山(ぞうずやま)の中腹に鎮座している神社。さぬきのこんぴらさんと呼ばれ、海の守護神として親しまれている。表参道口から御本宮まで785段、奥社までは1368段からなる石段が有名。

江戸時代中期に庶民の間へ信仰が広がり、金毘羅参りが盛んに行われ、今日に至るまで海の守り神として信仰を集めている。御祭神は大物主(おおものぬし)の神で崇徳(すとく)天皇を合祀している。

Map&Access



〒766-8501

香川県仲多度郡琴平町 892-1

TEL:0877-75-2121

FAX:0877-75-2125

- ◆JR土讃本線「琴平」徒歩 20分
- ◆高松琴平電鉄「琴電琴平」徒歩 15分

Konpirasan

春 うらら

磴道につづく人波の

北の南の国訛りかも

———第21代宮司琴陵(ことおか)光重 歌碑より

Main point



コトデン琴平駅横にある高さ日本一の燈籠。東讃岐の人々が6年の歳月を費やして 1860年に完成した。



清国第一級の書家として知られる王文治（おうぶんち）の筆が掲げられた旭社。



本宮の御祭神は、大物主神と崇徳天皇で、海上安全をはじめ、さまざまな願いを叶えてくれる神様として、広く親しまれている。

大門から続く石畳の道は、桜馬場と呼ばれる。春になると、爛漫に咲いた桜が左右から枝を交え、すばらしい桜の道となる。



こんぴらさんへ立派に代参の務めを果たした犬は特に「こんぴら狗」と呼ばれた。



本宮の側の神木の東には神楽殿がある。建物は入母屋造・檜皮葺で、祭典の伶人楽や雅楽を奏する所。



境内への入口、威風堂々とした二重門は、1650年初代高松藩主の松平頼重公（水戸光国の兄）の寄贈によるものである。



賢木門（さかきもん）は、唐破風と千鳥破風の棟が交錯する檜皮葺の屋根をもち、他に類を見ない優雅な様式を備える。



橋の形が刀の鞘の似ていることから鞘橋という。屋根つきで橋脚のない全国でも珍しい浮橋。